

鍵



Bブロック作品と講評

www.columnland.net

は

ギ

す

力

の

で

を

物

本

鑰鉤鉤

鑰

鑰科技鉤鉤鑰科技

鉤鉤鑰鉤科技

鉤鑰嗅鉤鉤鑰嗅鉤

鑰嗅鉤鉤鑰鉤嗅鉤鑰鉤

鑰科技鉤鑰嗅鉤科技鑰科技鉤鑰鉤科技鉤鑰嗅鉤科技鉤鑰嗅鉤科技鉤鑰嗅鉤

鉤科技鑰鉤科技鉤鑰鉤科技鉤鑰鉤科技鉤鑰鉤科技鉤鑰鉤科技鉤鑰鉤科技鉤鑰鉤

嗅鉤鑰嗅鉤嗅鉤鑰鉤嗅鉤嗅鉤嗅鉤嗅鉤嗅鉤嗅鉤嗅鉤嗅鉤嗅鉤嗅鉤嗅鉤嗅鉤

科技鑰鉤嗅科技鑰嗅鉤科技鉤鉤鑰科技鉤鉤鑰科技鉤鉤鑰科技鉤鉤鑰科技鉤鉤

鑰鉤科技鉤鑰鉤科技鑰

鉤鑰科技鉤鉤嗅鉤鑰科技鉤

鑰嗅鉤科技鉤鑰鉤

鉤鑰科技鉤鑰

鉤鑰科技

鑰

穴

れ

鍵

ら

の

け

つ

つ

開

一

一

カシは出かけていった。

あたしはカシの帰りを待たずながら

誰も居ないこの家で留守番。

見知らぬ誰かがあたしに近づいてきた。

何食わぬ顔をしてあたしに寄ってきた。

「違う、あなたじゃない」

あたしはそついつと突き放した。

ようやくカシが帰ってきた。

「ただいま」

カシがいつものようにあたしに寄ってきた。

やっぱりカシはあたしにびったりだ。

「おかえり」

あたしはそついつとカシに身を委ねた。

カシがあたしをくるりと回した。

あたしのお留守番が終わった。

きっかけ

朝、玄関の鍵を開けて外へ出る
なんだかドアが重い

昼、学校で鍵を落とす
拾ってくれた人と仲良くなる

夜、玄関の鍵を開けて中へ入る
なんだかドアが軽い

きつと、明日の朝もドアは軽い

「かぎっ」

ぽかぽかとお日様が照っている。

午後三時三十分。

六時間目の授業が終わって、下校の時に公園の時計を見たらそんな時間だった。お友達と話してたから少し遅くなったかもしれない。

てくてくと一人で歩いてたら、いつの間にかお家のある団地の棟に着いていた。

同じ団地に住んでるお友達は何人かいるけど、この棟には僕しか住んでなかった。エレベーターに乗って五階まで登って、そのまま僕の家の前まで行った。

ポケットからキーホルダーのついた鍵を取り出す。

三年生になった時にお母さんからもらった鍵。

なんか『フケーキ』だからお母さんもお仕事に行かなくちゃいけないって言ってお昼にお家にいられなくなったらしい。

だから、僕が帰ってきた時にお家に入れるように鍵をくれたんだ。

もらった時は嬉しかった。

僕が大人になったって、お母さんに言われてると思ったから。

だけど……………

ガチャリと音を立ててお家のドアの力ギを開けた。

ドアを開けると、外よりも少し暖かい空気が中から漏れてきた。

多分、窓が全部閉まってるからお家の中が暖かくなってるんだろう。

「ただいまー」

去年までそうしていたのと同じように、お家の中のお母さんにそう声をかけた。

…………… だけど、お家の中から返事は無い。

そうだ、と気が付いた。

お母さんはお仕事でいないんだ。

そのまま、誰もいない中、僕の部屋に行ってランドセルを机に下ろした。

そして、誰もいないリビングに戻る。

…………… お家の中は何の音も無くて、すごく静かだった。

たまに聞こえる外の車の音が、大きく聞こえる。

僕一人しかいないと、お家がいつもより広く感じて、少し怖かった。

テーブルの上のリモコンを取ってテレビをつける。

いつもお母さんが見ていた番組。

僕には面白くなかったけど、いつもより大きな音にしてつけっぱなしにした。

そうしたら、少しだけ怖さが無くなった。

だけど、テレビから出てる楽しそうな笑い声は、僕にはやっぱり面白くなくて、どうしてか分からないけど、僕を少しだけ寂しくさせた。

暗闇

最後にかけたのはいつだっけか

内側からかけたのに外側からしかひらけない

堅い堅い頑丈な鍵

だれか開けてくれる人いませんか

修学旅行

明日で一週間の修学旅行も終わる。地元の「県」に帰るのはすこしさびしい気もする。そんな最後の夜、いつものように消灯時間を過ぎてもしやべつていた。

普通の高校生なら異性の話で盛り上がりるところだろうが、男子校の彼らの話題は教師の愚痴だった。

「この前の数学の時のあのはげの説明わかんないよな。垂直がなんとか……」

授業中の80パーセント

は眠っている△はそのときだ

け起きていたのだろう。だんだん

ボルテージはあがり愚痴大会となつて

いった。もしかしたら部屋の外まで声が漏

れていたかもしれない。そのとき隣の部屋で怒

鳴り声が聞こえてきた。体育のゴリラだ。大学時代に柔道大学ベスト4の男に何度打たれたことか……。

もちろん静粛に包まれるわけだが、手遅れかもしれない。とはいえ合鍵はないといつていたし内側から鍵もした。

最悪出なければいいだろう、と

思っていた。「ガチャ」…………

「鍵ささったままだぞ」

人生

私たちは生きていく

悩みながら

つまずきながら

苦しみながら

それでも必死に

未来への扉の鍵を探して

今日も朝御飯を食べてこられなかった。駅ナカのコンビニでカロリーメイトとウィダーインゼリーを買って、発車しかけの満員電車で滑りこむ。押しつぶされそうなまゝ一息つく。一息ついて、ふとなにか欠けているような気がした。

あれ、もしかして、玄関の鍵、しめてない？

いや、ちょっと急いでいたからといっていつも通りに出てきたはずだし、鍵なんて毎日かけるものだから掛けたか掛けなかったかなんて改めて確かめるものでもないし、もう電車の中だから引き返したら遅刻確定しちゃうし……。でも、最近私の住んでいるマンションあたりで不審な男がうろついているとか何とか。だからと言って戻ったら、鍵が閉まっただけでもない。遅刻で減給されるんだろうし、そもそも面倒。うん、うん、多分しめた。しめたと思う。しめたってことにしよう。どうせ空き巣が入ったところで盗られるような貴重品なんてないし、きつと部屋の汚さに驚いて逃げ帰るわ。

あ、……もう降りなきゃー！

僕の彼女はどこか抜けている。今朝は目覚まし時計を止めて二度寝し、化粧だけして駆けていった。しかも、見事に玄関の鍵を掛け忘れて。物騒なこのご時世になんて無用心なんだろう。もしも空き巣やストーカーが部屋に入ったらどうするつもりなのか。今日は彼氏である僕だったからいいとして。

とりあえず部屋の内側から鍵をしめてやり、僕は室内を見回す。

彼女の部屋は物が散乱している。タンスから引っぱり出された衣服、ヘアアイロン、飲みかけのペットボトル、カーペットクリーナー、ポテトチップスの袋、表紙の折れた女性誌。せめて彼氏である僕が来る時くらい清潔な部屋にしてほしいと思うが、突然の訪問だから無理もない。ずぼらなのも可愛いとして許すことにしよう。

まあ、そうは言っても足の踏み場も無いのは困るから、帰ってくるまでに僕が少し片付けてあげようか。「へえ、……意外だなあ。こういう下着が好みなんだね。ふふ。外に干してくれないから知らなかったよ。」

『しめた、あいてる』

《父》いつまでお前はその扉を閉ざしているんだ？

確かにそこに閉じこもっていると落ち着くのはわかる。

でもさ、家族のだんらんって父さん大事だと思うんだ。

父さんもう準備は出来てるから。

あとはお前がその鍵を開けて出てくるだけなんだ。

頼むから開けてくれ。早くしないと父さん会社遅刻するだろ！

《子》駅の使えばいいじゃん。

《父》ああ、その手があったか。

《母》いってらっしゃーい。

“ 水のあるなぜか落ち着く場所 ”

誰かが言った。

「鍵は大事なものにつけるものだ。そしてかぎ括弧は会話文につける。だから大事な思いは口に出して伝えなきゃいけないんだ。」

こんなことを聞いたら誰もがこう思うだろう。

（そんなのただの綺麗ごとだ…）

だが、何故かこの言葉が何故かずっと心に引つ掛かっていた。僕にはずっと心に秘めていた大事な思いがあったからだ。

ある日のこと、

（心に鍵を付けてとっておくのではなく、言葉にかぎを付けて相手に受け取ってもらおう。それが本当に思いを大切にするってことなんだ。）

決心した僕は勇気を出して言った。

「あの…（以下略）」

——その日、僕は何かを失った。

名前は聞かない。それがここでのルールだった。

でも彼の名を、少なくとも彼の呼び名を、私は知っていた。

その男は、今までドアだろうが金庫だろうが、時には丁寧に開き、時には扉ごと壊し、さまざまな鍵を破ってきた。

彼の呼び名は、私だけではなく、町じゅう、いや、国じゅうの人間が知っている。

仕事中の彼を見て生きて帰った者はいない。

彼に奪われた命は数え切れない。

本来なら、ただのコソ泥である私が隣にいてもよい人間ではないのだ。

彼は床に腰を下ろしたまま、青白い月明かりに照らされた、黒い扉の鍵穴を見つめていた。

ここで彼は、ずっととそうしている。

彼がその白髪混じりの頭でなにを考えているのか、わからなかった。

今、目の前にある鍵の破りかたを考えているのだろうか。

彼が今までに破った鍵を思い出しているのだろうか。

それとも、彼が手にかけて人間の最期を思い返しているのだろうか。

実は、彼は目の前の鍵にはあまり興味がないのかもしれない。

それでも彼の眼は、確かに鍵穴に向けられているように見えた。

ずいぶん時間がたった。空がうつすらと明るくなる。

足音が聞こえた。数人のものだ。

音は少しずつ近づき、やがてすぐ近くで止まった。

ふいに目の前の鍵が音を鳴らし、そして重い扉が開けられた。

「四七八五番、出ろ。」

ここでは彼をそう呼ぶ人たちもいる。

彼はおとなしく立ち上がり、姿を消した。

そして彼は帰ってこなかった。

「執行前夜」

あなたの心の鍵を開きたい

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
A01	鍵	15 pt 技術の発達っていいことだよね、と思いつつ、考察を重ねて行くと、あれれ？ 疑う心に突き当たって立ち止まってしまいます。 そんな等身大の考察がとても好印象な表紙、ずっとみんなの心に届いてシルバー・メダルです、おめでとう!! イチオシフレーズ：「疑う心に鍵をしたい」×2	2 位	0 sp
A02	追い出し屋	4 pt 正統派来ました！ しっかり調べて、がっちりまとめ。途中で分かりやすい比喻も織り交ぜつつ、堂々と立論した気合いの入り方に拍手！ 「である」調に文体統一すると、もっと読みやすくなります。 特別賞：コラムらしいで賞（本当のコラムっぽい） テーマを考えま賞（テーマとあまり関係がない） Great Examination Prize（ネタ的にマイナーだったから） 完全にコピペで賞（語尾があってない。Wikiから取ってきただろう） ガチコラム賞（新聞に出せそうなくらい。）	6 位	5 sp
A03	これがはじまり	2 pt まさに長編ストーリーのはじまり気分のゆったりした語り口です。 特に「そりゃ個性がなきゃ困るわな」の段落の考察の深さが秀逸でした。	9 位	0 sp
A04	かくれんぼ	11 pt 鍵くん視点から、あいつとの関係を描写。 ほら、ポケットのなかだよ、とやきもきしてる、かわい鍵くんキャラクターが、短いセリフからしっかり立ってます。ラストの1行、入れて良かったですね。 おめでとう、ブロンズ・メダル！ イチオシフレーズ：「大事なものって意外と身近に」×2	3 位	0 sp
A05	黒鍵	10 pt 黒鍵から哲学的に語り出してショパンへ。 「蜘蛛のように蠢く」なんて文学的な比喻が、お約束のクラシック美少女に濃い翳りを添えて、「いのち」という言葉のなまなましさがよく似合います。なかなか、とんがった仕上がりが印象的な一曲でした。 特別賞：おいしい！で賞（鍵盤の形になっていておもしろいが最後のところでずれていておいしい！から）	4 位	1 sp
	キーレスエント	4 pt 永遠に触れ合えない電子キー。スマートなようで、考えてみたら、ちょっとさびしいかも。	6 位	1 sp

A06	リー	さくっとなりきって、インパクト。ユニーク視点が良かったです。 特別賞：リズム賞（This is nice rhysm in the column.）←rhythmだと思うよ。
A07	会社員Aの悲劇	30 pt 1 位 1 sp お父さん、たいへんだなあ。 「だと？」にくすっと笑いました。 オチすっきり、情景ありあり。グッジョブ。 みごとみんなの心をわしづかみ。30ポイントの大台まで駆け上って、ゴールド・メダル&今週のイチオシフリース大賞ゲットです、おめでとう!!! 特別賞：シュールで賞（重いのに笑えるところがよかったから。） イチオシフリース：「ガキンツ」×3 「チェーンロック……だと……？」×2 「会社員Aの悲劇」
A08	鍵を握る	0 pt 11 位 0 sp けっこうムズい設定。少女キイは全部の鍵を開けて消えてしまったってことでしょうか。 いわゆるセカイ系（でいいのか？）ファンタジーっぽく、ラストは思索的にまとめていただきました。 握りしめた鍵がせつない余韻です。
A09	帰路	1 pt 10 位 1 sp カキ→ガキ→カギの三変相。 言葉遊びをコミカルに見せていただきました。 「かける」の意図を汲んだ、しゃれた特別賞です。 特別賞：鍵をかけたで賞（鍵をかけまくっているから）
A10	鍵が大好きすぎて顔がりんごちゃんに。	0 pt 11 位 6 sp 同じくカキとガキとカギで遊んで、こちらは関数。 数学科のTAさんが、むずかしい顔してましたよ。 でもまあ、この特別賞の嵐。ポイントは入らなかったけど、ある意味、強いインパクトを与えて大勝利かも。おめ！ 特別賞：わからない賞（何が言いたいのかさっぱりわからないところ（笑））スキスキ賞（スキスキだから）意味わからない賞（ゆかいだから）意味深でしょうか、いいえ意味不で賞（りんごちゃん）説明しま賞（意味が分からない）そこ「ガッキー」で賞（「ガッキー」ならよかった。） イチオシフリース：「鍵が大好きすぎて顔がりんごちゃんに。」×2
A11	自転車を盗まれた人	9 pt 5 位 0 sp カギ無くしかないとかわせて、無くなったのは自転車ですっ。おー、なるほどね！ 読み返して、ひとつひとつの伏線がちゃんと回収できるナイス・ミスリードでした。 イチオシフリース：「ーなんで鍵かけ忘れたんだろ。」「僕だ、全部僕が悪い」
		4 pt 6 位 0 sp 「人」は避けられるけれど、「音」はまっすぐダイレクトに刺さってくる。その特質をつかまえて、そこから鍵がほどけてゆくまで。

A12	ピアノ	ラスト作品、ゆたかな余韻を響かせていただきました。 『』内がドレミファ♪で出きてるなんて気づかなかったなあ。すごい！ イチオシフレーズ：『』の中全部
-----	-----	--

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	無題（鍵穴）	0 pt 鍵穴のなかに「鍵」は一つだけ。あとはニセモノ。 気づいて納得。ナイスアイデア！ 特別賞：努力賞（よく頑張った！レイアウト）	12 位	1 sp
B02	鍵穴	7 pt お留守番、という設定が、いつも家から動けない鍵穴姫の特徴をうまくつかまえて、感情移入を誘います。 コミカルでちょっとセクシーな姫の魅力全開でした。 イチオシフレーズ：「違う、あなたじゃない」	7 位	0 sp
B03	きっかけ	4 pt 鍵つながり。小さなできごとに、ふっと心が軽くなる。 ポジティブな仕上がり、何より折り目正しいフォントと文体が好印象でした。 イチオシフレーズ：「きっと、明日の朝もドアは軽い」	8 位	0 sp
B04	かぎっこ	12 pt 寂しいという言葉自分を自分に引き寄せたくない小学生。でもやっぱり、お家は広いし静かだし。 小さなキモチになりきって、その感覚で「音」をつかまえた工夫がしっかり生きて、かぎっこ気分を伝えています。 フロアにもかぎっこさん多かったですでしょうか。共感力大でブロンズ・メダルです、おめでとう！ イチオシフレーズ：「フケーキ」	3 位	0 sp
B05	暗闇	9 pt ただいまヒキコモリ中、でしょうか。 自分では開けられない。閉じ込められてしまった閉塞感がひしひし伝わってきます。 特別賞：ふたりで会いま賞（二人は合っているから 12 とセットで受賞）	5 位	1 sp
B06	修学旅行	2 pt 引っ張って引っ張って、あっけなく鍵ささりオチ。 なかなかのインパクトです。リアリティ抜群、いかにも修学旅行っぽい、わいわい感。実話でしょうか？ 特別賞：ゴリラ賞（安倍のイチオシ 以上!!）	10 位	1 sp
B07	人生	3 pt 人生には節目節目に扉があって鍵を使って前進するんだというイメージ、特に受験をクリアしたあとだと、しっくり馴染むでしょう。 さて、大学で探すべき鍵は？	9 位	0 sp
B08	しめた、あいてる	14 pt タイトルのセンス、同時並行の構成力、じわじわ見えてくるストーリー男の不気味さ、すべてにパーフェクトですばらしい。 そして、まさかの女性作者さんだなんてっっ！ シルバー・メダル&最多特別賞です、おめでとう!! 特別賞：変態賞（フォントに変態っぽさが出てる）実話で賞か？（あまりにリアルだから）深いで賞（多分ス	2 位	6 sp

		トーカーだから）ド変態で賞（気持ち悪い、吐き気をもよおす、共感できる） ふふ。賞（ふふ。） タイトルが神賞（タイトルとテーマが上手くかけられている。） イチオシフレーズ：「しめた、あいてる」×2 「へえ……意外だなあ、こういう下着が好みなんだね。ふふ。外に干してくれないから知らなかったよ。」
B09	水のあるなぜか落ち着く場所	19 pt 1 位 1 sp 重々しく始まっておいて、水のある……というオチのつけかたが、ストレートでなくて、ふわっといい感じ。しゃれたコント気分ですね。ストーリーを振り切って家族モノが首位です、おめでとうゴールド・メダル!!! 特別賞：一休和尚（賞）（子供が冷静に機転の利かせた返答をしたから） イチオシフレーズ：<<子>>「駅の使えばいいじゃん。」×2 <<母>>「いってらっしゃーい。」「父さん、もう準備出来てるから。」
B10	鉤括弧	1 pt 11 位 0 sp あーあ、これだけ思い切ったのに、失っちゃったんだと、せつないオチ。 山場のところを「以下略」とか、スピード感つくるのが巧いですね。前半が思いっきりクサイ分、爽快に笑えます。
B11	執行前夜	10 pt 4 位 2 sp 青白い月明かりが照らし出す死刑囚。 客観視線で描くことで、彼は何を思って最後を迎えたのかなと、いろんな想像を刺激してくれます。 描写力、すばらしかったです。 特別賞：シリアス賞（テーマがかぶってなくてシリアス） 麻原賞（彼としか思えないから）
B12	無題（心の鍵）	9 pt 5 位 3 sp 心の鍵ネタあまたあれど、ここまでダイレクトに刺さったのは、おみごと。 たったワンフレーズの作品で、今週のイチオシフレーズ大賞です、おめでとう！ 特別賞：simple is the best賞 simpleで賞 1文字5点GET賞（12文字で60点とかバロスww） ふたりで会いま賞（二人は合っているから5とセットで受賞） イチオシフレーズ：「あなたの心の鍵を開きたい」×5